



# 15. 第一次世界大戦とロシア革命

## 1 第一次世界大戦

年次	できごと
1908・9 ・10	<p>ブルガリアがオスマン帝国から独立を宣言</p> <p>オーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合</p>  <p>1878年のベルリン条約でオーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナの統治権を獲得していたが、青年トルコ革命の混乱に乗じて同地を併合した結果、<u>大セルビア主義を掲げるセルビアを怒らせ、同じギリシア正教国のロシアに支援を求めた。</u>当時、バルカン半島は、“<b>ヨーロッパの火薬庫</b>”と呼ばれ、スラブ人の連帯と統一を目指すパン＝スラブ主義（1848年のチェコ人バラツキーが主催したスラブ民族会議に始まる）とドイツとオーストリアのゲルマン人のパン＝ゲルマン主義の縦横の衝突があった（バルカン死の十字）。</p>
1910	<p>アルバニアの反乱（青年トルコ政権の集権化に対する）</p>
1911・7 ・9	<p>第二次モロッコ事件</p> <p>イタリア＝トルコ戦争（～1912年10月）</p> <p>青年トルコ革命でオスマン帝国が混乱している隙と、2か月前に発生した第二次モロッコ事件でフランスとドイツが対立している隙を就いて、イタリアがオスマン帝国に開戦、翌年に第一次バルカン戦争が起きて劣勢となったオスマン帝国が停戦に応じて、イタリアにリビアを割譲した。</p>

年次	できごと
1912・5	<p>バルカン同盟</p> <p>ギリシア正教徒が多いという共通点を持つパン＝スラブ主義陣営のセルビア・モンテネグロ（以上は南スラブ系）・ブルガリア（トルコ系ブルガール人と南スラブが融合）・ギリシア（非スラブ系）がロシアの支援を得てオスマン帝国に対抗するバルカン同盟を結んだ。</p> 
・10	<p>第一次バルカン戦争</p>
1913・5	<p>ロンドン条約</p> <p>イタリア＝トルコ戦争に刺激を受けたバルカン同盟諸国がロシアの支援を受けて青年トルコ革命後の混乱に乗じてオスマン帝国に開戦したのが第一次バルカン戦争で、バルカン同盟諸国が勝利。翌1913年5月のロンドン条約で以下の取り決めがなされた。</p> <p>（1）オスマン帝国は、イスタンブルを除く欧州（バルカン半島）の領土とクレタ島を失う</p> <p>（2）アルバニアの独立を承認</p>
・6	<p>第二次バルカン戦争</p>
・8	<p>ブカレスト条約</p>

年次	できごと
1914・6	<p data-bbox="389 336 1130 736"> <u>第一次バルカン戦争後、セルビア・ギリシア・ブルガリアでマケドニアを領土分割することになっていたが、その取り分を巡って不満を持つブルガリアがセルビアとギリシアに開戦したのが第二次バルカン戦争。</u>オスマン帝国、ルーマニア、モンテネグロがセルビア・ギリシア側に味方して参戦し、ブルガリアが敗戦。<u>ブカレスト条約で領土縮小を余儀なくされたブルガリアは、三国同盟陣営に接近した。</u>また、先の三国間でマケドニアが分割された。         </p> <p data-bbox="389 761 614 788">サライェヴォ事件</p> <div data-bbox="403 807 705 958">  </div> <p data-bbox="403 962 718 1045">この直後にフランツ＝フェルディナント夫妻がセルビア人プリンツィプに殺された。</p> <p data-bbox="760 813 1130 1058">28日、ボスニア・ヘルツェゴヴィナのサライェヴォで、オーストリアの帝位継承者夫妻がセルビア人に暗殺された<b>サライェヴォ事件</b>が起きた。</p> <p data-bbox="307 1078 642 1105">・7 第一次世界大戦勃発</p> <p data-bbox="389 1130 1130 1586"> <u>7月28日、オーストリアがセルビアに宣戦布告すると、ドイツがシュリーヘン＝プランに従い、中立国ベルギーを通過してフランスへ侵攻した。</u>8月、イギリスがドイツに宣戦布告すると、同月、日本は、<u>日英同盟</u>を理由にドイツに宣戦布告、9月にはロンドン宣言が行われ、11月には、<u>オスマン帝国が三国同盟側で参戦、1915年5月、ロンドン秘密条約を結んでいたイタリアが三国協商側に寝返り、同年10月には、ブルガリアが三国同盟側で参戦し、戦争が地球規模に拡大する第一次世界大戦となった。</u> </p>

年次	できごと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8</li> <li>・ 8</li> <li>・ 9</li> <li>・ 10</li> <li>・ 11</li> </ul>	<p>タンネンベルクの戦いでロシア軍が大敗</p>
	<p>東部戦線では、ロシア領ポーランドに侵攻したドイツ軍がタンネンベルクの戦いで露軍を撃破し、優位に進めた。</p> <p>第二次大隈重信内閣が日英同盟を理由に宣戦布告 当初イギリスは、参戦を求めなかったが、ドイツ東洋艦隊の脅威を除去するため、一転して参戦を請うたため、第二次大隈重信内閣外相加藤高明が日英同盟を理由に、慎重論を唱えていた元老山県有朋らを抑えて強硬に参戦を主張した。</p>
	<p>マルヌの戦い</p> <p>パリに迫ったドイツ軍がマルヌの戦いでイギリス・フランス軍に阻止され、以降西部戦線が両軍とも機関銃や有刺鉄線<small>ゆうしてつせん</small>で守られた塹壕戦<small>ざんごうせん</small>へ移行し、膠着状態に陥ったため、毒ガス・戦車・潜水艦・航空機・軽機関銃等の新兵器を投入した。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>塹壕</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>戦車 (英軍戦車マーク I)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>航空機 (複葉機)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>毒ガス戦</p> </div> </div>
<p>日本軍がドイツ領南洋諸島を占領</p> <p>日本軍がドイツ領南洋諸島 (サイパン島ほか) を占領。</p> <p>日本軍が山東省青島<small>チンタオ</small>を占領</p> <p>日本軍が山東省青島を占領</p>	

年次	できごと
1915・1	<p>第一次世界大戦が長期化かつ銃後の非戦闘員まで巻き込む<b>総力戦</b>（ドイツ軍人ルーデンドルフの造語）となったのは、参戦国がいずれも<u>第二次産業革命を経て長期間戦場に兵器を調達し得る産業力を培った</u>からである。一方、<u>戦争遂行のために産業を総動員させる必要から、銃後も国家に再編されることとなった</u>。いわゆる自由経済の反意語の<u>統制経済（計画経済）</u>と呼ばれるもので、<u>政府が原料の配分・発注のほか、食料や生活必需品の価格統制や配給を行い、労働市場も管理した</u>。また、<u>各国で社会主義政党を含む多くの政党が自国の戦争を支持する姿勢を見せたことで拳国一致体制が敷かれたが、社会主義政党の中には戦争支持・不支持で分裂したものもあり、第一次世界大戦の勃発で第 2 インターナショナルは、機能不全となった</u>。尚、1915 年 9 月、スイスで戦争に反対する左派社会主義者が集まったツィンメルヴァルト会議が開催された。第一次世界大戦では、<u>植民地の人々も兵士や労働者として徴発されたほか、男子の労働力の代替としてそれまで男性が主に就労していた分野（トラック運転手や警官）に女性が社会進出していった</u>。</p> <p>日本政府が袁世凱（北京）政権に対し、二十一カ条の要求<b>二十一カ条の要求</b>は、5 号計 21 カ条からなり、第 5 号を除いては、当時列強が行うレベルを逸脱したものではなかった。日本は、第 4 号までを要求事項、第 5 号を希望事項とした。しかし、中国には第 5 号を希望事項だと伝えず、しかも<u>英米に第 5 号要求を秘匿した</u>。ところが、<u>袁世凱は、第 5 号の存在を暴露したので、英米の対日不信感が高まった</u>。</p>

年次	できごと
<p>・ 4</p> <p>・ 4</p> <p>・ 5</p>	<p>日本は、<u>第 5 号を除いて軍事力を背景に最後通牒を突きつけて袁世凱政権に認めさせた。袁世凱政権は、要求をのんだ 5 月 9 日を「<u>国恥記念日</u>」とするなど、これを機に中国で反日感情が高揚した。</u></p> <p>①山東省のドイツ権益の継承</p> <p>②旅順・大連（関東州）間の租借期限の 99 年延長</p> <p>☛ 関東州旧ロシア権益は、1923 年に租借期間が満了。</p> <p>③漢冶萍公司（中国の民間の製鉄会社）日中共同経営</p> <p>④中国沿岸の不割譲</p> <p>⑤中国政府への日本人政治財政及び軍事顧問・日本人警察官の雇用</p> <p>ガリポリの戦い</p> <p>ロンドン秘密条約</p> <p>イギリス、フランスは、未回収のイタリアとフィウメを渡す代償に三国協商側で参戦することを約束させた。</p> <p>ルシタニア号事件</p> <div data-bbox="410 1186 771 1412" data-label="Image"> </div> <p>雷撃を受けて沈没したルシタニア号</p> <p>7 日、ニューヨークからリヴァプールへ向かうイギリスの客船「ルシタニア号」が当時<u>ドイツが中立国を対象に展開していたドイツの潜水艦に撃沈さ</u></p> <p><u>れ、犠牲者 1198 名の中にアメリカ人乗客 128 名が含まれていたことで、アメリカの対独感情が悪化したことから、後にアメリカが第一次世界大戦に参戦する要因となった。</u></p>

年次	できごと
<p>・7</p> <p>1916・2</p> <p>・5</p> <p>・5</p> <p>・7</p> <p>・7</p> <p>1917・1</p>	<p>フセイン（フサイン）・マクマホン協定</p> <div data-bbox="410 392 547 552" data-label="Image"> </div> <p>トーマス＝E ＝ローレンス</p> <p>アラブの太守でハーシム家のフセイン＝イブン＝アリーとイギリス人高等弁務官のマクマホンとの間で交わされた秘密協定を<b>フセイン＝マクマホン協定</b>という。三国同盟側で参戦したオスマン帝国を攪乱する目的で、<u>戦後にオスマン帝国からのアラブ人独立国家建設を約束した</u>。これに基づき、1916年からフセインがアラブの反乱を起こし、1918年にアラブ人国家ヒジャーズ王国を建国した。イギリスは、カイロ総督とインド総督がそれぞれ支援するハーシム家とサウード家の<b>イブン＝サウード</b>双方に二股をかけていた。1925年12月、イブン＝サウードは、ヒジャーズ王国を滅亡させ、ヒジャーズ＝ネジド王国を建国。</p> <p>ヴェルダンの戦い</p> <p>サイクス＝ピコ協定</p> <p><b>サイクス＝ピコ協定</b>は、英仏露間の三国間で結ばれた大戦後の<u>オスマン帝国領のアラブ地域に関する分割</u>とパレスチナを国際管理下に置くとした秘密協定で、フセイン＝マクマホン協定に矛盾する内容となっていた。</p> <p>ユトランド沖海戦</p> <p>ソンムの戦い</p> <p>第四次日露協約</p> <p>第三国の中国支配の阻止を確認した。秘密協定で満州の日露分割支配と極東における日露軍事同盟を約した。</p> <p>イギリスより日本に対して地中海へ艦隊派遣を要請</p>

2 ロシア革命

年次	できごと
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1</li> <li>• 2</li> <li>• 3</li> </ul>	<p>西原借款開始</p> <p>寺内正毅内閣は、私設特使西原亀三を派遣し、袁世凱亡き後の北京政権を代表する段祺瑞に西原借款を実施した。</p> <p>ドイツが無制限潜水艦作戦を宣言</p> <p>無制限潜水艦作戦は、アメリカの参戦を招来するとの反対意見を押しのけたルーデンドルフ参謀次長らが実施。</p> <p>ロシア二月革命（＝三月革命）</p> <p>第一次世界大戦の長期化による物価高騰で生活を圧迫されていた労働者や兵士や農業労働力を奪われていた地主が停戦を望んだのに対し、軍需物資の輸出で利益を上げていた産業資本家は、継戦に賛成していた。一方、ツアーリズムの打倒という点で一致していた革命諸勢力は、その後のビジョンについて意見が分かれていた。1917年2月23日（グレゴリオ暦では3月8日で、国際女性デーに該当）、首都ペトログラード（旧ドイツ風呼称のサンクト＝ペテルブルクから改称）で発生した女子労働者による“パン寄こせデモ”をきっかけに、労働者と兵士による大規模な暴動が起きたため、3月15日、皇帝ニコライ2世が退位し、ロマノフ王朝が断絶してブルジョワ革命としての二月革命が成立した。</p> <p>二月革命の結果、立憲民主党のリヴォフ公を首相とする臨時政府が成立したが、ブルジョワの利益を守りかつ三国協定の英仏との関係に配慮して継戦の姿勢をとった（レーニンらボリシェヴィキからは、「祖国防衛主義」と非難された）ので、労働者や兵士が集まるソヴィエトと激しく対立した。</p>

年次	できごと
<p>・4</p>	<div data-bbox="399 340 783 500" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="399 500 809 525" data-label="Caption"> <p>レーニン トロツキー ケレンスキー</p> </div> <p>こうして<u>臨時政府とソヴィエトの二重権力状態となった</u>が、メンシェビキやエスエルの指導下にあったソヴィエトもこの段階では臨時政府を打倒しようとは思っていなかった。4月、革命的祖国敗北主義を唱え、プロレタリア革命まで進めようと考えていたボルシェビキのレーニン・トロツキー・スターリンらが亡命先から帰国、レーニンは、“すべての権力をソヴィエトへ集中させるべき”とする<u>四月テーゼ</u>を発表した結果、<u>ソヴィエトがボリシェヴィキ支持に傾き、労働者が資本家から工場を管理下に置き、農民が地主に対して土地の分配を求めて蜂起、また、ウクライナ人などが自立する動きを見せた</u>。これに対して臨時政府は、ソヴィエトの要求であった講和の際の無賠償・無併合を約束したが、戦争は継続し、8月（ユリウス暦で7月）には、エスエルとメンシェビキが連立してエスエル右派の<b>ケレンスキー</b>を首相とする体制となった。ボリシェヴィキを支持する労働者が七月暴動を起こすと、ケレンスキーは、レーニンをドイツのスパイだと告発し、ボリシェヴィキを弾圧したため、レーニンは、フィンランドに亡命した。</p> <p>アメリカが参戦</p> <p>当初、アメリカ世論は、欧州戦争不介入であったが、ルンタニア号事件に続き、1917年1月のツィンメルマン電報事件、2月の無制限潜水艦作戦がアメリカ世論を硬化させた。</p>

年次	できごと
<p>・ 11</p>	<p>石井・ランシング協定</p>  <p>石井菊次郎</p> <p>二十一カ条要求は、日米間に緊張を走らせた。アメリカは、この年の4月に欧州戦争へ参戦しており、極東情勢を安定する必要がある、日本は、二十一カ条要求で中国に認めさせていた山東省の権益をアメリカに承認させる必要があった。そこで、特命全権大使石井菊次郎を渡米させ、アメリカ国務長官ロバート＝ランシングとの間で<b>石井・ランシング協定</b>を結んだ。アメリカは、中国における日本の特殊権益（山東省の旧ドイツ権益）を認める代わりに、日本は、中国における門戸開放・機会均等を保障した。しかし、「特殊権益」については両国で解釈に齟齬が生じており、アメリカはあくまでも経済的利益のみとしたのに対し、日本は経済的利益のほかに政治的利益も含むと解釈していた。石井菊次郎は、1945年5月の空襲で明治神宮付近で行方不明となった。</p>
<p>・ 11</p>	<p>バルフォア宣言</p> <p>イギリスによる三枚舌外交の総決算が<b>バルフォア宣言</b>で、こんにちの<b>パレスチナ問題</b>を惹起させた。イギリス外相バルフォアからシオニズム運動（ユダヤ人によるパレスチナ移住と建国を目指す運動）の代表でユダヤ人のウォルター＝ロスチャイルドに宛てた書簡の中で、<u>シオニズム運動の支援を表明してユダヤ資本の協力を取り付けようとしたが、明らかにフセイン＝マクマホン協定やサイクス・ピコ協定と矛盾するものがあった。</u></p>

年次	できごと
<p>・ 11</p> <p>1918・1</p>	<p>ロシア十月革命（=十一月革命）</p> <div data-bbox="403 382 650 542" data-label="Image"> </div> <p>7月1日から開始したいわゆるケレンスキー攻勢が失敗すると、9月、反ボリシェヴィキでは同志だったコルニーロフ将軍が継戦を主張して反乱した。ケレンスキーは、ボリシェヴィキの協力を得て反乱を鎮圧した10月、<u>亡命先からペトログラードに戻ったレーニン</u>は、<u>同月24日、マリア＝スピルドーノアなど社会革命党左派の支援も得てボリシェヴィキによる武装蜂起を指導、ケレンスキーが逃走したため、臨時政府が瓦解、十月革命が成立。史上初の社会主義政権となったソヴィエト政権</u>は、ボリシェヴィキ幹部が要職を占めた。首相にあたる人民委員会議長はレーニン、外相にあたる外務人民委員にはトロツキー、民族人民委員にはグルジア人のスターリンが就任した。10月26日に発表した「<u>平和に関する布告</u>」では、<u>無併合・無賠償・民族自決の原則で即時講和を交戦国に呼びかけ、秘密外交の廃止を主張、「土地に関する布告」</u>では、<u>土地の私的所有を廃止した</u>。その結果、即時講和の呼びかけには、三国同盟陣営しか応じなかったほか、秘密外交の廃止については、サイクス・ピコ協定の内容を暴露して同協定から離脱している。10月28日には、身分制度が全廃され、全ての国民がロシア共和国の市民となった。同年末には、反革命運動を取り締まるためにチェカが組織された。</p> <p>アメリカ大統領ウィルソンが「十四カ条」の平和原則を発表</p>

年次	できごと
<p>・1</p> <p>・3</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <p>アメリカ大統領<b>ウィルソン</b>が公正な講和の必要性を国際世論に呼びかけた「<b>十四カ条</b>」の平和原則を発表した。これらは、十月革命で発表された「平和に関する布告」に対抗するものであり、14カ条には、<b>秘密外交の廃止</b>（1条）・<b>軍備縮小</b>（4条）・<b>植民地問題の公正な解決</b>（5条）対象を欧州に限定した<b>民族自決</b>（6条・7条・10条・11条・12条）・<b>国際平和機構の創設</b>（14条）などが含まれていた。</p> </div> <p>レーニンが憲法制定会議を解散</p> <p>1917年11月、満20歳以上の男女を有権者とするロシア初の普通選挙が実施された結果、人口比で労働者の七倍いた<b>農民の支持を得たエスエルが憲法制定会議の第1党、労働者の支持を得たボリシェヴィキは、第2党となったため、18日、レーニンは、同会議を解散し、ボリシェヴィキ独裁を確立した。</b>同月28日、ソヴィエト正規軍<b>赤軍</b>を創設した。</p> <p><b>ブレスト＝リトフスク条約</b></p> <p>東部戦線を優位に進めていたドイツは、自軍の占領下にあったフィンランド・ポーランド・バルト三国・ウクライナの放棄と多額の賠償金を要求した。これに対してソヴィエト政権内でも意見が分かれたが、結局レーニン案が通り、3日、<b>ブレスト＝リトフスク条約</b>が結ばれた結果、<b>提携してきた社会革命党左派が条約に反対して離脱した。</b></p> <p>条約の結果、ロシアは、約320万km<sup>2</sup>の領土を喪失した。6日、ボリシェヴィキを正式にロシア<b>共産党</b>と改称し、9日、首都を安全な内陸部の<b>モスクワ</b>へ遷した。</p>

年次	できごと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3</li> <li>・ 3</li> <li>・ 7</li> <li>・ 8</li> </ul>	<p>対ソ干渉戦争開始（8月以降シベリア出兵）</p> <p>十月革命の波及を恐れた三国協商陣営は、十月革命を認めない元帝政ロシア軍人によるコルチャーク政権・デニーキン政権などの白軍（白衛軍）と呼ばれた反革命軍を支援して赤軍を駆逐することを目的に対ソ干渉戦争を開始した。共産党は、白軍と呼ばれた反革命軍や農民との内戦や対ソ干渉戦争を同時に遂行する必要から戦時共産主義と呼ばれた計画経済を導入した。具体的には、農民から余剰穀物の強制徴発を行い、隠匿した場合には、チェカに逮捕させてシベリアに送るなどの弾圧を行った。工場国有化を進めて私企業を一切禁止したほか、労働者への報酬が貨幣から現物支給に変わった。この過程で共産党による一党独裁体制が形成されたが、農民や労働者の労働意欲を著しく減退させ、生産力が停滞した。共産党は、1921年初めまでに内戦を勝ち抜いたが、1921年3月のクロンシュタットの反乱をはじめとする戦時共産主義に対する農民や労働者の抗議活動が拡大したため、レーニンは、穀物の強制徴発を廃止して余剰の自由販売を認め、中小企業の私的営業を認める新経済政策（ネップ）を宣言して部分的に市場経済を導入した。</p> <p>春季大攻勢（カイザーシュラハト）開始</p> <p>東部から兵力を西部戦線に回せた独軍が大攻勢に出た。</p> <p>ソヴィエト＝ロシア成立</p> <p>シベリア出兵</p> <p>日米英仏伊加中華民国がオーストリア＝ハンガリー帝国軍の一部として大戦に動員されて露に投降したチェコスロヴァキア軍団の救出を名目としたシベリア出兵を行った。</p>

年次	できごと
	<div data-bbox="403 340 820 643" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="477 645 743 672" data-label="Caption"> <p>シベリア出兵中の日本軍</p> </div> <div data-bbox="857 340 1133 683" data-label="Text"> <p>1918年11月にドイツが降伏してチェコ軍救出の名目が消え、1919年3月には最大の反革命軍であったコルチャーク軍が赤軍に大敗してシベリ</p> </div> <div data-bbox="385 705 1136 1110" data-label="Text"> <p>ア出兵の理由が全くなくなったため、1919年中に英仏軍が、1920年には米軍も撤退した中で、<u>7万余りの大兵力を投入していた日本軍だけ駐留を続行した結果</u>、1920年3月には、<u>赤軍パルチザンが行った虐殺事件の尾港（ニコライエフスク）事件</u>が起きた。<u>日本は、その報復として石油などの資源確保のため北樺太を占領した。シベリア撤兵は、北樺太を除いて1922年に完了し、1925年の日ソ基本条約で同地の石油・石炭の権益獲得と引き換えに北樺太を返還した。</u></p> </div> <div data-bbox="303 1132 1136 1321" data-label="Text"> <p>・8 百日攻勢 8日のアミアンの戦いから始まった協商国陣営の対独反攻戦を百日攻勢（～11月11日）と呼び、ドイツが春季大攻勢で獲得した領土をほとんど奪い返した。</p> </div> <div data-bbox="303 1342 1136 1638" data-label="Text"> <p>・8 レーニン暗殺未遂事件  <div data-bbox="406 1392 536 1551" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="406 1553 536 1609" data-label="Caption"> <p>ファニー =カプラン</p> </div> <div data-bbox="574 1398 1136 1638" data-label="Text"> <p>8月30日、ドイツとの単独講和に反対した反ボリシェヴィキのエスエル左派で35歳の女性ファニー=カプランが短銃でレーニンを狙撃して重傷を負わせた。カプランは、チェカにより4日後に銃殺された。</p> </div> </p> </div>

年次	できごと
・9	ブルガリアが降伏 ブルガリアがサラニカ休戦協定で降伏。
・10	オーストリア＝ハンガリー帝国の解体 10月から12月にかけて、領内からチェコスロヴァキア、ポーランド、セルブ＝クロアト＝スローヴェン王国が独立を宣言する中で、11月3日に休戦協定を締結、ハプスブルク家最後の皇帝カール1世が退位してスイスへ亡命した。
・10	オスマン帝国が降伏 オスマン帝国がムドロス休戦協定で降伏。
・11	ドイツ革命（ドイツ十一月革命） 3日、ドイツ艦隊の根拠地キール軍港の水兵反乱を機に、ドイツ全国で労兵評議会（レーテ）が成立してドイツ革命が起きると、9日、ヴィルヘルム2世がオランダに亡命し、同日、ドイツ社会民主党のエーベルトを首相とする臨時政府が樹立され、ドイツ共和国が発足、11日、休戦協定に調印。 <u>第一次世界大戦の結果、主戦場となって疲弊したヨーロッパは、戦勝国敗戦国の区別なく国力を減退させ、代わってアメリカ・日本・ソヴィエト＝ロシアが台頭、中でも債務国から債権国に転じたアメリカの伸長は、パクス＝ブリタニカを終焉させた（シュペングラー著『西洋の没落』は、欧州文明は成熟に達したと記し、没落とは書いていない）。また、英仏の凋落に伴い、その植民地の人々が権利意識に目覚め、独立運動を活発化させ、銃後で総力戦を支えた女性の地位が向上し、戦中から戦後にかけて各国で参政権獲得に繋がっていった。</u>

■第一次世界大戦の激戦地



●1914年8月～：タンネンベルクの戦い

東部戦線最初期の独露間の戦闘。ドイツ軍東部方面軍（第8軍）司令官が途中交代したヒンデンプルクで、実際は、参謀長のルーデンドルフが立案して遂行した。

●1914年9月～：マルヌの戦い

ベルギーを突破して来たドイツ軍をフランス軍が食い止め、これ以降西部戦線は、塹壕戦に転じ、長期化することとなった。

●1915年4月～：ガリポリの戦い

オスマン帝国の参戦でロシア艦がボスフォラスとダーダネルス海峡を通過できなくなったため、ガリポリにあったオスマン帝国の要塞をイギリス・フランス軍が攻めた。

●1916年2月～：ヴェルダンの戦い

西部戦線での独仏間の戦いで激戦となり、両軍計70万余の死傷者を出した。

●1916年7月～：ソンムの戦い

第一次世界大戦最大の陸戦。西部戦線。英軍が世界初の戦車マークIを実践投入した。

# 16. 国際平和と安全保障

## 1 パリ講和会議と国際連盟の設立

年次	できごと
1919・1	<p data-bbox="391 386 617 415">パリ講和会議開催</p> <div data-bbox="404 434 747 656">  </div> <p data-bbox="466 666 686 685">パリ講和会議四巨頭</p> <p data-bbox="404 691 747 879">左から、ロイド＝ジョージ英首相、ヴィットーリオ＝エマヌエーレ＝オルランド伊首相、ジョルジュ＝クレマンソー仏首相、ウッドロウ＝ウィルソン米大統領。</p> <p data-bbox="788 434 1131 898"><u>パリ講和会議を通して成立したヨーロッパの新国際秩序をヴェルサイユ体制という。パリ講和会議には、敗戦国であるドイツ、オーストリア＝ハンガリー帝国、オスマン帝国、ブルガリアと大戦中に成立したソヴィエト＝ロシアは、招待され</u></p> <p data-bbox="391 917 1131 1110"><u>なかったのに対し、1917年に参戦した中華民国は、参加。ウィルソン米大統領が14カ条の平和原則に基づき、公正な講和の実現を呼びかけたことに対し、イギリス・フランスが同調せず、ドイツに過酷な条件を提示すると主張。</u></p> <p data-bbox="308 1130 967 1159">・2 ソヴィエト＝ポーランド戦争（～1921年3月）</p> <div data-bbox="404 1178 548 1342">  </div> <p data-bbox="411 1342 528 1362">ピウツスキ</p> <p data-bbox="589 1178 1131 1632">1918年11月11日、第一次世界大戦が終了したこの日、ユゼフ＝ピウツスキを国家主席として123年ぶりに独立を回復した（第二共和制）。1919年2月、ピウツスキは、ロシア革命後の混乱に乗じてポーランド分割以前のポーランド・リトアニア共和国時代の版図の復活を企図してソヴィエト＝ポーランド戦争を起こした。一時、赤軍にワルシャワを包囲されたが、ピウツスキが後に“ヴィスワの奇跡”と呼ばれた大逆転劇を演じ、赤軍を撤退させた。</p>

年次	できごと
	<div data-bbox="410 345 766 593" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="418 595 758 622" data-label="Caption"> <p>シベリアにいたポーランド孤児</p> </div> <div data-bbox="806 336 1133 579" data-label="Text"> <p>1921年3月に結ばれたリガ条約でポーランドは、ロシアから西ウクライナと白ロシアの一部を獲得した。</p> </div> <div data-bbox="384 598 1134 1640" data-label="Text"> <p>1815年のウィーン会議で成立したポーランド立憲王国は、ロシア皇帝を国王としていた。その後、1830年のポーランド蜂起が失敗して事実上ロシアの属州とされ、1848年の諸国民の春（1848年革命）がポーランドにも及んだが、結果的には抑えられてしまう。その後、アレクサンドル2世の農奴解放令に触発されて1863年1月から翌年にかけて独立運動が展開されたが、ロシア軍により鎮圧され、18,000余のポーランド人がシベリアに流刑され、過酷な労働環境に晒された。1918年にポーランドが独立を回復すると、シベリアのポーランド人が帰国しようとしたが、ロシア国内での赤軍と白軍の内戦に加え、ソヴィエト＝ポーランド戦争が勃発して帰国できず、厳寒地で親を亡くしたポーランド孤児が取り残されていた。ここでウラジオストック在住のポーランド人が救済委員会を立ち上げ、1920年6月、シベリアに唯一軍隊を駐屯させていた日本に救援を求めてきた。要請を受けた日本では、日本赤十字社が中心となって、765人のポーランド孤児を救出し、日本に滞在させて栄養価の高い食事と衣服を提供してポーランドに送り届けた。100年以上前のこの一件がポーランドを現在ヨーロッパ最大の親日国にさせている。</p> </div>

年次	できごと
<p>・ 3</p>	<p>三・一事件（三・一独立運動）</p> <p>3月1日、朝鮮全土で起きた日本の植民地支配からの独立運動を<b>三・一事件（三・一独立運動）</b>という。朝鮮総督府などに鎮圧され、7,500人死亡した。</p> <p>この事件を受けた<b>原敬</b>内閣は、朝鮮総督と台湾総督について文官も可能とする官制改革を行った。朝鮮総督斎藤実は、それまでの<b>武断政治</b>から、朝鮮総督の文官任用併用、言論の自由の一部解禁、憲兵警察の廃止、会社令の廃止（朝鮮で会社を起こす際には総督府の許可を受ける義務があった）など<b>文化政治</b>へ転換した。この運動は、同年4月、<b>李承晩</b>を首班とする大韓民国臨時政府が結成されたが、諸外国から承認されなかった。</p>  <p>パゴダ公園独立宣言全文石碑 韓国ソウル特別市（著者撮影）</p>
<p>・ 3</p>	<p>第3インターナショナル（コミンテルン）が結成</p> <p><b>第3インターナショナル（コミンテルン）</b>は、当初、世界中にプロレタリア革命を輸出する国際共産党として発足し、レーニンからトロツキーに継承された<b>世界革命論</b>（ロシアのような後進資本主義国では社会主義は維持できないので、世界全体の社会主義化を目指す）に<b>収斂</b>されたが、結局ハンガリー革命やドイツ革命が失敗して波及しなかった。1924年、トロツキーは、役職を解任され、その後、国外追放した<b>スターリン</b>の<b>一国社会主義論</b>が主流となった。</p>

年次	できごと
<p>・3</p>	<p>ハンガリー革命</p>  <p>3月、ハンガリー共産党を結成していたクン＝ベーラがカーロイ＝ミハイ政権に圧力をかけ、ハンガリー革命を行って政権を掌握し、ハンガリー評議会共和国を誕生させた。クン＝ベーラは、コミンテルンの指導の下、企業の国有化や農地改革に着手したが、もともと保守的なハンガリー人の広範な支持を受けることができず、その上、フランスの後援を受けたルーマニア軍と反革命派の元提督ホルティが指揮する国民軍にブタペストへ侵攻され、クン＝ベーラは、ロシアに亡命（後にスターリン大粛清で処刑）したため、ハンガリー革命は、僅か133日間で失敗に終わった。ホルティは、1920年3月に成立した実際は王のいないハンガリー王国の失政に就任し、6月にトリアノン条約に調印した。この後ホルティは、独裁権力を掌握したが、議会政治は維持され、一応は言論の自由も認められていたので、ファイズムとは一線を画した、ポーランドのピウツスキ政権と同様、権威主義体制と呼ばれる。</p> <p>・4</p> <p>関東都督府が<small>かんとうぐん</small>関東軍と<small>かんとうちょう</small>関東庁に分離</p> <p>関東軍は、ポーツマス条約の結果、ロシアから譲渡された旅順・大連の租借地と長春～旅順間の鉄道（南満州鉄道）の付属地の守備を任務とし、当初兵力は、独立守備隊6個大隊で編成（1個師団に満たない）されていた。</p>

年次	できごと
<p>・ 5</p>	<p>五・四運動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">胡適          魯迅</p> <p><u>パリ講和会議で二十一カ条要求の無効が拒否されたことで、北京の大学生が始めたヴェルサイユ条約調印拒否を叫ぶ抗議運動を五・四運動</u>という。中国全土に広がった。結局、中華民国政府は、<u>ヴェルサイユ条約の調印を拒否した</u>。</p> <p>この運動を支えたのが1915年の<u>陳独秀</u>の雑誌『<u>新青年</u>』の刊行を嚆矢として興った<u>新文化運動</u>（文学革命）と呼ばれた大衆啓蒙運動である。『新青年』では、<u>文学者胡適らが提唱した文語から口語表現に転換すること（白話文学）</u>で、<u>文語の基になっている儒教思想から精神を解放することを目的とした</u>。白話文学は、1918年の<u>魯迅</u>が『新青年』に発表した「<u>狂人日記</u>」が始まりとされている。</p>
<p>・ 5</p>	<p>ギリシア＝トルコ戦争</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  <div style="text-align: right;"> <p>1830年にオスマン帝国から独立したギリシアは、大ギリシア主義を標榜し、オスマン帝国領内に残るギリシア人地域の統合を目論んでいた。5月、ギリシアがギリシア系住民の多いイズミルに侵攻を開始、これに対し、イスタンブールのスルタン政府は、何も手が打てなかったのに対し、アンカラで自立していた第一次世界大戦中のガリポリの戦いの英雄<u>ムスタファ＝ケマル</u>が1920年に<u>トルコ大国民議会</u>を招集してトルコ国民軍を組織してゲリラ戦を展開した。</p> </div> </div> <p style="margin-left: 20px;">ムスタファ ＝ケマル</p>

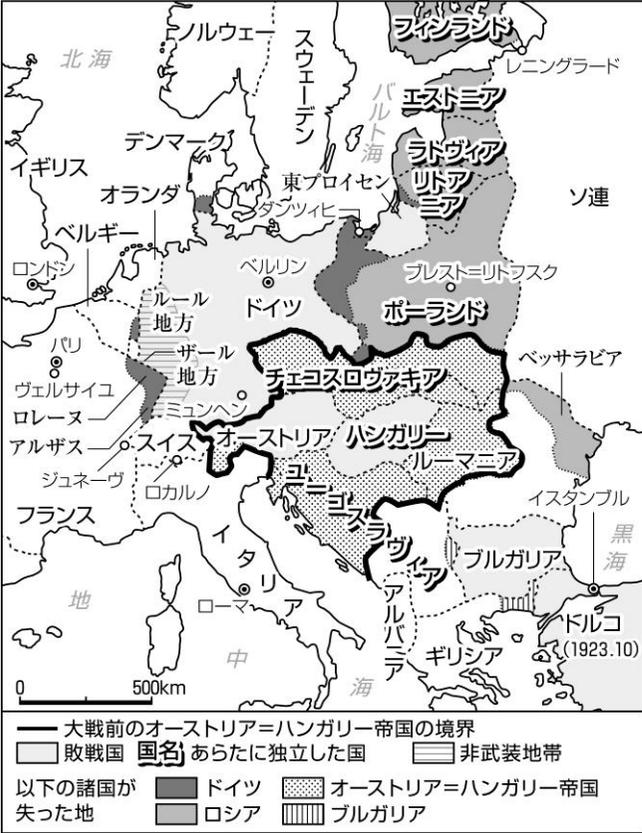
年次	できごと
<p>・6</p>	<p>ヴェルサイユ条約</p> <div data-bbox="410 382 1092 765" style="text-align: center;"> </div> <p>ウィリアム＝オーペン画 6月28日（サライエヴォ事件があった日）パリ講和条約調印場面ウィルソンの14カ条の平和原則を講和条件として休戦したはずのドイツにとっては、過酷な内容であった。</p> <p><b>ヴェルサイユ条約</b>は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際連盟規約</li> <li>(2) ドイツ領土の境界を規定             <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) <b>ポーランド回廊</b>を<b>ポーランド</b>に割譲</li> </ul> </li> </ul> <p>このほかに一部の地域については、住民投票による帰属決定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(3) 欧州各国の政治             <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) ブレスト＝リトフスク条約の破棄</li> <li>(ii) <b>ラインラントの非武装</b>（ライン川西岸は、連合国軍により15年間占領、東岸の50kmは、非武装）</li> <li>(iii) フランクフルト条約でドイツに編入された旧フランス領<b>アルザス・ロレーヌ</b>をフランスに返還。</li> <li>(iv) <b>ダンツィヒ</b>は、自由都市とし国際連盟の管理下に置く。港湾管理権は、<b>ポーランド</b>が有する</li> </ul> </li> </ul>

年次	できごと
	<p>(v) ザール地方は、国際連盟の管理下に置き、15年後に住民投票で帰属を決定する。その間炭鉱採掘権は、フランスが有する。帰属先がドイツとなった場合、ドイツが採掘権を買い戻すことができる</p> <p>(4) ドイツ国外の領土植民地) と権益</p> <p>(i) ドイツは、<u>全海外植民地の放棄</u></p> <p>(ii) <u>山東半島のドイツ権益は、日本へ譲渡</u></p> <p>(5) 軍備制限</p> <p>(i) 陸軍兵力は10万、海軍兵力は1万5,000人規模</p> <p>(ii) 装甲車・戦車・潜水艦・毒ガス・化学兵器の輸入・製造を禁止</p> <p>(iii) 徴兵制を廃止し、志願兵制度とする</p> <p>(6) 前ドイツ皇帝の処遇</p> <p>前ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世を国際裁判で裁くことを規定したが、本人がオランダへ亡命したため、開廷されず。</p> <p>(7) 賠償金</p> <p>この時は、賠償総額については決定されず、1921年に賠償委員会で当時のドイツのGNPの20年分に相当する1320億金マルクと<u>巨額の賠償金</u>が決定された。</p> <p>ヴェルサイユ条約により、ドイツは、東部プロイセンが飛び地となり、国土の7分の1、人口の10分の1を喪失した</p> <p><u>パリ講和会議では、民族自決の理念により、ロシア帝国とオーストリア＝ハンガリー帝国の崩壊で成立した、<u>ポーランド</u>、<u>フィンランド</u>、<u>エストニア</u>、<u>ラトヴィア</u>、<u>リトアニア</u>、<u>チェコスロヴァキア</u>、<u>ハンガリーの独立が承認</u>された。</u></p>

年次	できごと
<p>・9</p>	<p>しかし、その理念が適用されたのは、ヨーロッパに限定され、没収されたドイツの植民地も戦勝国間で分配された。<u>アジア・アフリカは、政治的後進地域であったので、自治や独立を即認められず、統治を先進諸国に委任させる委任統治方式が採用された結果、もともとアラビア半島全域がオスマン帝国領ではなかったが、そこからヒジャーズ=王国が建国されたのを例外とし、旧オスマン帝国領のイラク・トランスヨルダン・パレスチナは、イギリスの、シリアは、フランスの委任統治領となり、旧ドイツの植民地であった南太平洋の島々のうち、赤道以北のものは、日本の委任統治領となった。</u></p> <p>サン=ジェルマン条約（対オーストリア=ハンガリー帝国）  <b>サン=ジェルマン条約</b>は、以下の通り。</p> <p>（1）オーストリアは、ハンガリー、チェコスロヴァキア、ポーランド、南スラヴ系のセルビア、モンテネグロにオーストリア=ハンガリー帝国領であったクロアチア、スロヴェニア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、ヴォイヴォディナを併せたセルブ=クロアート=スローヴェン王国の独立を認める（1929年にユーゴスラビア王国に改称）。オーストリア=ハンガリー帝国の解体で、オーストリアは、ゲルマン人地域だけのオーストリア共和国となった。</p> <p>（2）未回収のイタリアは、イタリアに割譲されたが、フィウメは、セルブ=クロアート=スローヴェン王国に割譲</p> <p>（3）ドイツとの併合禁止</p> <p>（4）軍備制限・賠償金</p>

年次	できごと
1920・1	<p>・9 イタリア人ダヌンツィオが義勇兵を率いてフィウメを占領 イタリアの詩人ダヌンツィオが義勇兵を率いてフィウメを占領したため、国際連盟で問題となり、イタリア政府は、後にダヌンツィオ義勇軍を撤退させた。</p>
	<p>・11 ヌイイ条約（対ブルガリア） <b>ヌイイ条約</b>は、以下の通り。 （1）ドブルジャをルーマニアに返還 （2）トラキアをギリシアに割譲 （3）マケドニア人のいくつかの居住区をセルブ＝クロア ート＝スローヴェン王国に割譲 （4）賠償金</p> <p>国際連盟発足 <b>国際連盟</b>の本部は、スイスの<b>ジュネーブ</b>に置かれ、参加国は発足時で<b>42</b>カ国。<b>イギリス・フランス・イタリア・日本</b>が<b>常任理事国</b>となった。しかし、言い出しっぺの<b>アメリカ</b>は、<u>議会でモンロー主義の傾向を強めて加入を否決した。</u><b>アメリカの不参加</b>や敗戦国<b>ドイツ（1926年加盟）、ソヴィエト＝ロシア（1934年加盟）</b>の参加が認められなかったことや、<u>国際連盟が経済制裁を可能とした半面、軍事制裁の手段を持たず、議決方法は、各国一票の総会での全会一致であったことは、国際連盟の紛争解決能力を弱めた</u>（但し、中小国間の紛争調停や難民支援では成果を上げた）。</p> <p>国際連盟には、総会・理事会・連盟事務局のほか、国際労働機関（ILO）やオランダのハーグに置かれた常設国際司法裁判所などの付属機関が設けられた。</p>

年次	できごと
・3	尼港事件
・4	<p>サン＝レモ会議</p> <p>イギリス・フランス・イタリアなどが大戦中のサイクス＝ピコ協定に基づき、オスマン帝国領内のアラブ地域についてアラビア半島以外のアラブ人地域のメソポタミアやパレスチナについてイギリス・フランスに委任統治領と決定、バルフォア宣言を確認してユダヤ人国家の建設に合意した。</p>
・6	<p>トリアノン条約（対ハンガリー）</p> <p><b>トリアノン条約</b>は、以下の通り。</p> <p>（1）北部ハンガリー（スロヴァキア・カルパティア・ルテニア）をチェコスロヴァキアへ割譲</p> <p>（2）トランシルヴァニアとバナトの大部分をルーマニアに割譲</p> <p>（3）クロアチアとボスニアほかをセルブ＝クロアト＝スローヴェン王国に割譲</p> <p>この結果、ハンガリーの領土は、従来の3分の1に縮小。</p>
・8	<p>セーヴル条約（対オスマン帝国）</p> <p><b>セーヴル条約</b>は、以下の通り。</p> <p>（1）イラク・トランスヨルダン・パレスチナは、イギリス、シリアは、フランスの委任統治領。</p> <p>（2）東トラキアをギリシアに割譲。また、イズミルは、ギリシアの行政権下へ</p> <p>（3）ボスフォラス・ダーダネルス海峡は、国際管理下に置かれる</p> <p>（4）アルメニアの独立容認</p>

年次	できごと
	<p>(5) 治外法権を含むカピチュレーションは継続され、財政は、イギリス・フランス・イタリアの監視下に置かれるこの結果、オスマン帝国の領土分割は、ほぼサイクス=ピコ協定に沿った形となり、オスマン帝国の領土がアナトリアに限定されるとともに主権の喪失を含む亡国的内容となっていたが、スルタンのメフメト 6 世が自身の生命と財産の保証を条件に調印した。尚、<u>この時の英仏に与えられた委任統治領の境界線が現代の中東諸国の国境線となった。</u></p>  <p>     — 大戦前のオーストリア=ハンガリー帝国の境界      □ 敗戦国 国名 あらたに独立した国 □ 非武装地帯      以下の諸国が 色/模様 意味      失った地 色/模様 意味      ■ ドイツ ■ オーストリア=ハンガリー帝国      ■ ロシア ■ ブルガリア   </p>

2 ワシントン会議

年次	できごと
1921・11	<p>ワシントン会議開催</p>  <p>ワシントン会議を通して成立した<u>アジア・太平洋地域での新国際秩序をワシントン体制</u>という。                      アメリカ大統領ハーディングの提唱で開催されたのが<u>ワシントン会議</u>。ヨーロッパ諸国は、戦勝国であっても大戦で疲弊していたので、<u>アメリカにとってアジア・太平洋地域における好敵手の日本の台頭を抑制する内容</u>となった。                      日本首席全権は、海相加藤友三郎、全権は、駐米大使幣原喜重郎、貴族院議長徳川家達。</p>
・12	<p>四カ国条約</p> <p><u>四カ国条約</u>は、<u>アメリカ・イギリス・フランス・日本</u>の4カ国間で、<u>太平洋地域の領土と権益の相互尊重を約束した</u>もので、<u>日英同盟が破棄</u>された。</p>
1922・2	<p>九カ国条約</p> <p><u>九カ国条約</u>は、四カ国条約締結国＋イタリア、<u>中華民国</u>ら9カ国間で、<u>中国に関する主権と独立の尊重、領土保全・機会均等・門戸開放を定めた</u>もので、石井・ランシング協定が破棄され、日中間で<u>山東懸案解決条約</u>を結ばれて山東省の旧ドイツ権益を返還した。</p>
・2	<p>海軍軍備制限条約（海軍軍縮条約）</p> <p><u>海軍軍備制限条約</u>は、<u>アメリカ・イギリス・日本・フランス・イタリア</u>の5カ国間で、<u>主力艦の保有率</u>を定めたもの。</p>

年次	できごと
<p>1923・7</p>	<p>(1) 主力艦の保有率を、米 5 : 英 5 : 日 3 : 仏伊 1.67</p> <p>(2) 10 年間 (1931 年まで) 主力艦の新規建造禁止</p> <p>・ 10 日本軍がシベリアから撤兵を完了</p> <p>・ 11 オスマン帝国の滅亡</p> <p>1922 年 11 月、トルコ大国民議会は、スルタン制の廃止を可決したので、メフメト 6 世が亡命し、オスマン帝国が滅亡。</p> <p>・ 12 ソヴィエト社会主義共和国連邦結成</p> <p>ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、ザカフカース (グルジア・アルメニア・アゼルバイジャンの 3 か国が統合) が合同してソヴィエト <b>社会主義共和国連邦</b> を (<b>ソ連邦</b>・<b>ソ連</b>) が結成された。ソ連を最初に承認したのは、1922 年にラパロ条約を結んだドイツで、1924 年にイギリス・フランスが、1925 年に日ソ基本条約で日本が、1933 年にアメリカが承認した。その翌年ソ連は、国際連盟へ加盟した。</p> <p>ローザンヌ条約</p> <p>セーヴル条約を破棄して新たに <b>ローザンヌ条約</b> を締結</p> <p>(1) 喪失していた欧州領のうち、東トラキアの回復</p> <p>(2) イズミルの回復</p> <p>(3) ベルリン条約でイギリスに統治権が認められていたキプロス島をイギリスに割譲</p> <p>(4) 治外法権を含むカピチュレーションの廃止</p> <p>しかし、財政は、依然としてイギリス・フランス・イタリアの監視下に置かれた。</p> <p>(5) 関税自主権の回復</p> <p>(6) 陸海軍の軍備制限の撤廃</p>

年次	できごと
<p>・10</p>	<p>トルコ共和国建国</p> <div data-bbox="410 384 661 753" style="text-align: center;"> </div> <p>ローマ字を教えるムスタファ＝ケマル</p> <p>29日、トルコ大国民議会在アンカラを首都とする<b>トルコ共和国</b>の建国を宣言し、初代トルコ共和国大統領にムスタファ＝ケマルが選出された（トルコ革命）。1934年、議会は、ムスタファ＝ケマルに「<b>アタデュルク</b>」（“父なるトルコ人”）の姓を与えた。<u>ムスタファ＝ケマルは、以下の近代化政策を推進。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) <b>カリフ制の廃止</b>により政教分離を実現</li> <li>(2) 太陽暦の採用</li> <li>(3) 文字改革（アラビア文字を廃止して<b>ローマ字</b>を採用）</li> <li>(4) チャドルの廃止・一夫多妻制の廃止などの女性解放</li> </ol> <p>1934年にトルコ大国民議会選挙の被選挙権・選挙権が女性に与えられた。イギリスで女性に国政選挙の選挙権が与えられたのは、第一次世界大戦末期の1918年、戸主か戸主の妻でありかつ30歳以上の女性に限定して、1928年に21歳以上の男女普通選挙権が与えられた。アメリカは、1920年、ドイツとカナダは、1918年、ロシアは、1917年、一方、女性の参政権主張を最初に行ったフランスは、日本と同じく1945年。ちなみに世界で初めて女性に国政選挙権を与えたのは、1898年のニュージーランド、次いで1902年のオーストラリア、1906年のフィンランド。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(5) 殖産興業政策による<b>民族資本</b>の育成</li> </ol>

### ③ 1920年代の西欧諸国の動向

#### ① イギリス

アイルランド問題は、以下の経緯をたどった。

1916	<p>イースター蜂起</p> <p>アイルランド自治法の実施が延期となったことに反発したアイルランド自由主義同盟が復活祭の日に<b>ダブリン</b>で武装蜂起（イースター蜂起）したが、イギリス軍に鎮圧された。しかし、この蜂起を機に、蜂起には関与しなかったシン＝フェイント党に支持が集まり、その後、1918年にイギリスがアイルランドにも徴兵制を適用したことと、同年の第4回選挙法改正で21歳以上の男子と30歳以上の女子に選挙権が拡大したことも手伝い、同年12月に実施されたイギリス総選挙においてアイルランド選挙区で大勝した。</p>
1919～ 1921・7	<p>アイルランド共和国独立宣言→アイルランド独立戦争</p> <p>1919年1月21日、シン＝フェイン党指導層は、アイルランド共和国議会を開催し、国際的承認を得ようと折から開催中のパリ講和会議に代表団を派遣したが、無視された。一方、独立を認めないイギリスとの間で武力闘争、いわゆる<b>アイルランド独立戦争</b>＝英・アイ戦争が勃発した。</p>
1920～	<p>アイルランド統治法可決→アイルランド自由国の成立</p> <p>ロイド＝ジョージ挙国一致連立内閣は、アイルランド統治法を可決。英・アイ戦争が休戦した後の1921年12月、両者が妥協し、アイルランド統治法に基づき、<u>プロテスタントが多い北部のアルスター地方をイギリス領のまま、カトリックの多い南部をイギリスの自治領にとどめる内容</u>で合意し、1922年1月、<b>アイルランド自由国</b>が成立した。</p>

<p>1922・6～ 1923・5</p>	<p>アイルランド内戦</p>  <p>マイケル デ=ヴァレラ =コリンズ</p> <p>イギリスのアイルランド統治法の方針に対して、シン=フェイント党は、アイルランド全土の完全独立と共和政を掲げるデ=ヴァレラの少数派とイギリスと妥協するマイケル=コリンズらの多数派に分裂した結果、アイルランド人同士による内戦に発展した。</p>
<p>1931</p>	<p>ウェストミンスター憲章</p> <p>第一次世界大戦を総力戦で戦ったイギリスは、自治領（ドミニオン）からの参戦協力を得る代償に、パリ講和会議への参加を認めたため、ドミニオンは、調印権まで持った。1926年10月、ドミニオン側から<u>本国イギリスと対等の地位</u>を求める動議が出されると、イギリスが受諾して1931年12月、<b>ウェストミンスター憲章</b>として法制化、ここにイギリス帝国は、<b>イギリス連邦（コモンウェルス）</b>に再編された。独立国となったイギリス連邦の構成国は、カナダ連邦、オーストラリア連邦、ニュージーランド、南アフリカ連邦、アイルランド自由国、ニューファンドランド（1949年にカナダ連邦に加入）の6カ国で、英領マレーやインド帝国などの植民地は、そのまま置かれた。</p>
<p>1937</p>	<p>エールの国号を使用してイギリス連邦を離脱して独立</p> <p>1932年、デ=ヴァレラは、1937年に新憲法を制定して国号を<b>エール</b>と変え、総督を廃止し、ダグラス=ハイドを大統領に選出して独立を果たした。イギリスは、この時ナチスの台頭もあってアイルランドの独立を認めざるを得なかった。</p>

1949	<p>アイルランド共和国</p> <p>第二次世界大戦を通して徹底して中立を貫いたエールでは、1949年の総選挙で長期政権を築いていたデ=ヴァレラ政権が敗れた結果、4月18日、イギリス連邦から正式に離脱して国号をアイルランド共和国と改めた。</p>
------	--

イギリスでは、銃後の守りを担った女性の政治参加を実現しなければなら  
ないとの認識が大戦中から広まっていった。イギリスにおける選挙法改正史は、以下の経過をたどった。

1832	<p>第1回選挙法改正（ホイッグ党グレイ内閣）</p> <p>ブルジョワに選挙権が与えられ、腐敗選挙区が廃止。一方、1838年から1848年にかけて選挙権がない労働者が21歳以上の男子普通選挙制などを掲げてチャーチスト運動を展開した。</p>
1867	<p>第2回選挙法改正（保守党ダービー内閣）</p> <p>都市労働者の大部分に選挙権が与えられた結果、有権者数がほぼ倍増した。</p>
1884	<p>第3回選挙法改正（自由党グラッドストーン内閣）</p> <p>第2回選挙法改正で取り残されていた農業労働者と鉱山労働者にも選挙権が与えられた。</p>
1918	<p><b>第4回選挙法改正</b>（自由党グラッドストーン内閣）</p> <p>21歳以上の男子普通選挙制の実現と、<b>30歳以上</b>かつ戸主または戸主の妻の女性に限定して選挙権が与えられた。</p>
1928	<p><b>第5回選挙法改正</b>（保守党ボールドウィン内閣）</p> <p>21歳以上の女子普通選挙制の実現。この結果、男女平等選挙権が実現した。</p>

さらに、初の**労働党内閣**（自由党との連立政権）第一次**マクドナルド内閣**が成立し、ソ連を承認したが、短命内閣に終わった。

## ②フランス

普仏戦争以来、ドイツに対して潜在的に敵国意識を持つフランスは、ヴェルサイユ条約でドイツに課せられた賠償金 1320 億金マルクのうち 52%を受け取ることになっていたが、ドイツからの賠償金が滞ったことを理由に、フランスの右派のポアンカレ内閣は、ベルギーを誘い、1923 年 1 月、ルール工業地帯を占領した(ルール占領)。フランスがここまで強硬であった理由の一つが、領土的野心のほかに、賠償金をアメリカからの戦債の返還に充てる必要があったからであるが、同じくアメリカからの戦債の返還を迫られていたイギリスは、あまりにドイツを追い込むことは得策ではないと考え、賠償金の支払いにはフランスほど苛烈な態度を見せなかった。

これに対してドイツは、意図的に仕事をさぼる「消極的抵抗」で対抗したため、ドイツでは急激に生産力が低下してインフレーションが急激に進行（マルク紙幣の価値は、1913 年と比べて一兆分の一まで下落）した。

1924 年 8 月、アメリカから **ドーズ案** が提示された。アメリカにとっては、ルール占領で再び独仏戦となれば、フランスに貸し付けた戦債の回収ができなくなる可能性があったため、戦後モンロー主義の姿勢を強めていたけれどもここは是非とも介入する必要性を感じていた。ドーズ案は、ドイツの標準年の賠償金支払い額を 25 億金マルクとしてむこう 4 年間は減額とする。また、アメリカからドイツに資金を貸し付けて賠償金の返済を円滑化するというドイツに配慮した内容となっていた。アメリカからの民間資本は、ドイツ経済が復興する契機とはなかったが、一方でドイツの債務が蓄積する矛盾も生んだので、1929 年には、新たに賠償金総額を 358 億金マルクに大幅に減額し、返済期間も 59 年間とするヤング案が作成された。結局ドーズ案を受け入れたフランスは、**ブリアン**外相が主導して、1925 年にベルギーとともに何も得られないまま撤兵した。

